SAGAMIHARA GREEN
相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン
Vol.72
2025.03

2～3ページ▶

## クレマチスの多様性と日本を代表する野生種のカザグルマ

国立科学博物館 植物研究部
研究主幹　村井 良徳 氏

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて

## キマダラルリツバメ

日本鱗翅（りんし）学会
評議員　長谷川 大（たかし）氏

今世紀になり日本でリリースされたフロリダ（テッセン）系のクレマチス品種‘はやて’
© 村井良徳

タマノホシザクラ

*Cerasus × subhirtella* f. *tamaclivorum*
エドヒガンとマメザクラの種間雑種と考えられる桜で、南多摩の一部の緑地などで見つかっています。
がく片（花弁のすぐ外側にある葉のような部分）が長三角形で、花を裏から見ると五芒星（星形）のように見えるのが特徴。

ヤブザクラ

*Cerasus × subhirtella* f. *hisauchiana*
エドヒガンとマメザクラの種間雑種でタマノホシザクラとは別のタイプに分類されます。関東地方、中部地方の低山や丘陵地で見られ、タマノホシザクラとはがく片の形などが異なっています。

## タマノホシザクラと多摩の雑木林の再生

文・写真　森林総合研究所　多摩森林科学園　主任研究員　岩本 宏二郎氏

タマノホシザクラは、エドヒガンとマメザクラの雑種と考えられるサクラで、南多摩の森林に生育しているものが近年確認され、学術的に記載されたことから注目を集めました。よく似た形態を持つヤブザクラとともに多摩地域の都立公園などに植栽されているのを見ることができます。

タマノホシザクラは、多摩ニュータウン開発に伴って公園などに移植され、分布が広がったと考えられています。そのため、開発前の分布範囲については定かではありませんが、かつて多摩地域の農村地帯に広がっていたコナラやクヌギ、サクラ類などの落葉広葉樹からなる森林（雑木林）の中で生育していたと推測されます。これらの雑木林は、薪の採取や落ち葉かきなど人の生活に関わって利用されることにより、明るい場所を好む落葉広葉樹の生育に適した場所となっていました。

現在、公園や緑地として残っている雑木林は、管理方法の変化により、かつて生活に利用されてきた頃とは木の大きさや生育する植物などが大きく変化しています。このような状況を踏まえて、一部の林では林床の草刈りや樹木の伐採・萌芽更新などの管理を行って雑木林の再生を目指す活動が進められています。

タマノホシザクラの保護のためには、個々の木の保存だけでなく、タマノホシザクラなど多様な植物が持続的に生育できる雑木林の自然環境も含めて保全することが重要だと考えます。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

# クレマチスの多様性と日本を代表する野生種のカザグルマ

写真1　センニンソウ（*C. terniflora*）

写真2　ハンショウヅル（*C. japonica*）

写真3　テッセン（*C. florida*）

## 【クレマチスとは】

クレマチスは、キンポウゲ科センニンソウ属（*Clematis*）の総称です。世界の北半球を中心に約300種もの野生種が分布しています。日本にも、その和名が属名のもとになったセンニンソウ（*C. terniflora*）（写真1）や後述するカザグルマ（*C. patens*）、また、ハンショウヅル（*C. japonica*）（写真2）などの花の色や形が異なる野生種が自生しており、変種などの種より下位の細かい分類を含めると30種類近く分布しています。

日本では古くから、中国原産とされるテッセン（*C. florida*）（写真3）が栽培されており、茶花などとして親しまれているため、この名でクレマチスを認識されている方も多いと思います。クレマチスの多くは蔓性で、多種多様な花が壁面などを美しく飾り、「蔓性植物の女王」とも称され、園芸植物として大変人気があります。

## 【世界で作出される多様な品種群】

クレマチスは世界の野生種の一部が利用され、驚くほど多様な園芸（栽培）品種が作出されており、現在その数は3,000種類近くにもなります。その品種開発は、150年以上前にヨーロッパで始まりました。ヨーロッパ周辺には*C. viticella*（写真4）や*C. integrifolia*のような野生種が自生しており、もともと花をたくさんつける性質はありましたが、花が小さく花色もあまり目立ちませんでした。そこで、ヨーロッパの野生種（交配親）にはみられない大きな花や、異なる花色などをもつ、アジアやアメリカなどの他地域のクレマチスが集められ、多種多様な園芸品種が作出されました。その中でも、ヨーロッパの野生種由来の品種に、アジア原産の大輪花である*C. lanuginosa*が掛け合わされて誕生した品種である*C.* 'Jackmanii'（写真5）は、大きく鮮やかな色の花がたくさんつき、当時、センセーションを巻き起こしました。この*C.* 'Jackmanii' をもとに、さらに交配が進み、ジャックマニー系と呼ばれる品種群が作出されています。

写真4　（*C. viticella*）

写真5　（*C.* 'Jackmanii'）

### 四季を通じて楽しめるクレマチスの開花

クレマチスの多くは、春から初夏にかけて花が楽しめますが、関東では4月頃に咲きはじめる「早咲き」から、5月頃に咲きはじめる「遅咲き」まであり、開花期は種類や生育場所などによって少しずつ異なります。特に遅咲きのクレマチスの中には、花後にしっかり剪定すると二番花、三番花と、繰り返し咲く性質（四季咲き性）をもつ種類もあります。さらに、夏咲きや秋咲き、冬咲きのクレマチスもあり、開花時期も多様ですので、うまく組み合わせれば、一年中クレマチスが楽しめます。


文・写真

国立科学博物館　植物研究部
多様性解析・保全グループ
（筑波実験植物園）
研究主幹　**村井 良徳** 氏

写真6　'柿生'

写真7　'ルリオコシ'

写真8　カザグルマ（相模原市街地周辺）

写真9　カザグルマ（市内山間部）

## 【カザグルマの重要性と希少性】

クレマチスの野生種の一つにカザグルマ（*C. patens*）があります。このカザグルマは、日本から中国まで分布しますが、日本では花の色や形などに、特に多くの変異がみられます。かつて、シーボルトらがヨーロッパに持ち帰り、交配親として利用されました。カザグルマの種小名（*patens*）にちなんだパテンス系という大輪花のグループがあるほど、クレマチスの重要な野生種です。日本では戦後に育種が盛んに行われ、'柿生'（海外での流通名：'Pink Champagne'）（写真6）をはじめとする、国内外で愛されるパテンス系の品種が数多く作出されています。また'ルリオコシ'（写真7）など、野生のカザグルマの八重咲きから選抜されたと考えられている品種もあります。

その一方で、カザグルマは、花が大きく目立つため、根こそぎ自生地から持ちさられてしまったり、人里植物と言われるほど生活圏との距離が近いため、道路やダム開発、最近ではメガソーラー開発などでも自生地が失われており、危機的な状況です。環境省により絶滅危惧種に、また県によっては指定希少野生動植物種などにも指定されています。

神奈川県内にはこのカザグルマが、相模原市と横浜市内の限られた場所にのみ自生しています。相模原市内のカザグルマ（写真8、9）は、「相模原のカザグルマを守る会」が中心となり、何とか守っていただいていますが、個体数が少なく、決して安心できる状況ではありません。市民の皆さんで協力して、ぜひ相模原のカザグルマを大切に次世代へとつないでください。

## 【新たな作出がつづくクレマチス】

クレマチスは現在でも国内外で新しい園芸品種が作出されており、その多様性はさらに高まっています。日本で戦後に開発された名花である'柿生'の枝変わり品種とされる'フェアリー・ロゼ'（写真10）は、日本発の最新品種の一つです。

その一方で、永く愛されている品種も多く、例えば1990年代に開発され当時の相模原市長の名前がついた'メイヤー・イサオ'（写真11）という品種もあります。

クレマチスは、多様な花の色や形が楽しめますが、品種名も個性的で面白いので、楽しむ際のポイントかもしれません。市内の相模原麻溝公園では、たくさんのクレマチスが植栽展示されていますので、ぜひお気に入りの花を探してみてください。

写真10　'フェアリー・ロゼ'

写真11　'メイヤー・イサオ'

国立科学博物館筑波実験植物園では、日本各地のカザグルマの系統保存を行いながら、クレマチス園公開というイベントで展示しています（写真12）。

写真12　広島県産のカザグルマ

筑波実験植物園
クレマチス園公開

市内の動植物を訪ねて

キマダラルリツバメ♀（2024.6.13）
© 相模原市立博物館

アリからエサをもらうキマダラルリツバメの幼虫（右）
© 工藤 誠也

# キマダラルリツバメ

日本鱗翅（りんし）学会　評議員　長谷川 大（たかし）氏

今回ご紹介する市内の動植物はキマダラルリツバメ。相模原市内では旧藤野町と旧津久井町のきわめて限られた地域に分布し、旧藤野町全域の「キマダラルリツバメとその生息地」は神奈川県の天然記念物に指定されています。タイトルから、鳥の“ツバメ”を思い浮かべた方もいるかもしれませんが、しじみ貝ほどの大きさのかわいらしいチョウのなかまで、後翅にはツバメの尾羽のように後方へ伸びる２対（４本）の尾状突起を持つことが特徴です。

さて、ユニークなのはその姿かたちだけではありません。チョウと言えば、キャベツやミカンといった特定の植物に産卵し、孵化した幼虫はその葉を食べて成長するのが一般的です。ところが、このキマダラルリツバメは、ハリブトシリアゲアリというアリが巣を造っているソメイヨシノ、キリ、クワなどの古木に好んで産卵し、孵化した幼虫はアリから口移しでエサを与えられて成長するのです。しかも、そのエサはアリが運んできた昆虫の身体の一部など主に動物質というのですから、なんとも不思議な暮らしぶりです。幼虫の背中には蜜腺と呼ばれる器官があってアリをひきつける「蜜」を出します。アリはこれを目当てに幼虫の世話をしているように見えますが、この「蜜」がアリにとってどんな働きをするのかはよく解っていません。アリの巣の中で冬を越した幼虫は、晩春にはサナギになり初夏に成虫が羽化します。

成虫の観察適期は例年６月中旬から下旬、つまり梅雨どきなのでお天気次第ということになりますが、晴天時の午後３時から６時ごろの活動時間帯には、発生木周辺の低木上を飛翔する姿や、草地のヒメジョオンで吸蜜する姿を観察することができます。人家や耕作地の広がる人里に発生地がありますので、観察や撮影に際しては、そこで暮らす方々への礼儀や配慮を欠くことのないよう心がけましょう。

## 緑の募金へのご協力ありがとうございました

**募金総額 794,344円**
※相模原市域集計額　［2024年７月１日～2024年12月末］

※なお、個人情報保護の観点から、個人名は省略させていただきました。

**募金協力団体一覧**（敬称略/順不同）：
㈱野﨑工業所、㈱植義、㈱タウンニュース社、㈱ニシコウポレーション、㈱ウィッツコミュニティ、㈱パティネレジャー、㈱ライズ、㈱清和サービス、㈱三凌商事、㈱フクシ・エンタープライズ、関東商事㈱、橋本駅北口第一再開発ビル㈱、東海体育指導㈱、相模トライアム㈱、タイヨー印刷㈱、東テク㈱、㈱サット、ダイナミックベンディングネットワーク㈱、㈲久間電気管理事務所、㈲東京加熱サービス、（一社）津久井観光協会、（公財）相模原市スポーツ協会、津久井交通安全協会、さがみビルメンテナンス協同組合、社会福祉法人相模原市社会福祉協議会、社会保険労務士法人安藤事務所、アイ・アール税理士法人相模原中央事務所、細田明彦税理士事務所、新磯野2丁目市民緑地を守る会、相模台地区自治会連合会、藤野地区自治会連合会、星が丘地区自治会連合会、橋本地区自治会連合会、大野北地区自治会連合会、自治会法人中渕自治会、山王自治会、自治会法人嶽之内自治会、大野中地区自治会連合会、藤野やまなみ温泉、くぬぎ台小学校、淵野辺小学校、青葉小学校、藤野南小学校、桜台小学校、星が丘小学校、麻溝小学校、湘南小学校、千木良小学校、大沢中学校、北相中学校、東林中学校、神奈川総合産業高等学校、相模原市水みどり環境課

**お寄せいただいた緑の募金は、市内の緑化の推進に活用させていただくほか、国・県の緑化事業や、災害被災地域への緑化等の復興支援にも活用されます。**

**私たちは相模原市まち・みどり公社と共に「みどり豊かなまちづくり」を応援しています**

広告
KIRIN

広告

2025年３月１日　編集／発行：公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
住所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23　TEL：042-751-6623　FAX：042-751-2345

**相模原市まち・みどり公社は、「さがみはらSDGｓ推進企業」として、地域とともに環境や社会に配慮した事業を推進しています。**